



一般質問

令和3年第4回定例会の一般質問は12月15日に行われ、3人の議員が登壇し、村政全般にわたり質問がなされました。

質問項目は右のとおりとなります。ここでは、やり取りの一部を抜粋して紹介いたします。詳細な内容は会議録の公表をお待ちください。

はなし 葉梨 公一 議員 所属：総務経済委員会

○これからの美浦村の農業振興について

はやし 林 昌子 議員 所属：総務経済委員会

○より良い学校給食について

○子宮頸がん予防ワクチン積極的勧奨再開について

○気候非常事態宣言について

まつむら 松村 ひろし 議員 所属：厚生文教委員会

○ノーマライゼーションとSDGsについて



これからの美浦村の農業振興について



はなし 葉梨 公一 議員

質問 農業を取り巻く厳しい状況の中での米価・コメの需要の動向は。

答弁 (経済建設部長) 米価は前年度と比較し2千円以上低下している。主食用米の需要は一貫して減少しており、近年は年間10万トン程度と、減少幅が拡大している。

質問 現在の美浦村農業振興政策(水稻)は。

答弁 (経済建設部長) 稲作の生産調整達成者に対し、国の助成に村の助成を上乗せする他、利子補給や、近年は鳥獣による農作物被害に対し電気柵や防鳥ネット等の資材購入費を助成する等、農業の振興を図っている。

質問 令和3年度に公表することになっている美浦村人・農地プランの進捗状況は。

答弁 (経済建設部長) 全農地対象に利用意向調査、担い手に対し農地借り受けの意向や拡大面積の確認、農業全体の課題等の調査を実施し、意見を反映させたプランの見直しを行っており、本年度末に公表を予定している。

質問 今後の美浦村の農業振興については。

答弁 (経済建設部長) 村独自の助成、後継者のいない農地所有者と農地拡大を希望する農業者のマッチング、基盤整備事業を推進していく。

質問 これからの美浦村の農業を発展させるためには。

答弁 (村長) 基幹産業である農業を守るため、令和4年度の産地づくり助成金も例年通り実施してまいりたい。

より良い学校給食について



はやし しょうこ
 林 昌子 議員

質問 子ども達が健やかに成長し健康に過ごせるよう、より良い学校給食を目指すことが必要。取り組みを伺う。

- ①子どもの意見も取り入れるためのアンケート。
- ②幼稚園給食を大谷小学校給食室で作り運搬する検討。
- ③幼稚園給食について、施設も含めた今後の構想。

答弁 (教育部長) ①実施し、献立作成の参考とする。

②現実的には難しい。

答弁 (教育長) ③総合教育会議で児童館・保育所・幼稚園の今後について話し合っていきたい。

子宮頸がん予防ワクチン 積極的勧奨再開について

質問 昨年6月に正確な情報周知について質問し、対象者全員に通知が再開された。今後の取り組みを伺う。

答弁 (保健福祉部長) 予診表の個別送付等による周知を進める。今後も国の動向を踏まえ、安心して接種できるよう対応する。

気候非常事態宣言について

質問 住民とともにこれ以上気候変動をさせない努力をする事が必要と考える。本村の見解を伺う。

答弁 (経済建設部長) 「美浦村地球温暖化対策実行計画」に基づき取り組みを周知。

答弁 (村長) 国から都道府県、そして市町村に意識を促すといいことだと思つ。

ノーマライゼーションとSDGsについて



まつむら ひろし
 松村 広志 議員

質問 本村の新たな「障がい者計画」による『ノーマライゼーション』とは、「健常者と障がい者が区別されず同様の生活を送れるよう支援すること」である。これは「障がいの有無を問わず必要なもの」「普通とは何か？」などを改めて問うことでもある。

更に、原理の一つ『インクルーシブ(包摂性)な社会』が原則として求められる。このことは「自他共の幸福」「誰も置き去りにしない」SDGsの理念と軌を一にする。平成28年6月の議会質問では、『インクルーシブ教育システムの構築』を尋ねた。当時の教育

長から「当システム構築のためには特別支援教育を着実に進めていくことが重要」であり、「小中学校から通級指導や特別支援学級等の連続性のある環境の設定も基となる、関係機関との連携等を重ね構築の検討をする」との答弁があった。取り組みを伺う。

答弁 (保健福祉部長) 当システム構築に向け授業のユニバーサルデザイン化を目指している。これは障がいのある児童生徒が能力や可能性を最大限に伸ばすことに併せ、全ての児童生徒が参加しやすい環境と理解できる授業を目指すことである。現在、内容の検討と指導の工夫に取り組んでいる。

